

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502439		
法人名	有限会社 ドリーム・キャスル		
事業所名	グループホーム キャスル清田(さくら)		
所在地	札幌市清田区清田3条2丁目7番4号		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojohe-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502439&amp;SCD=320">http://system.kaigojohe-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502439&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成23年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な経験を積んできた職員が活発に意見を出し合い、入居者様の支援に役立っています。明るい性格の職員が多いので、いつも入居者様や職員の笑顔に溢れたホームです。また、日当たりの良いテラスには季節の花や野菜を植え、秋には皆で収穫をしたり、調理をして食べています。ひとりひとりの入居者様が充実した毎日を送り、安心した環境の中で、落ち着いた自由な生活をしていただけるよう職員一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、住宅街と羊が丘通りに挟まれた7階建ての建物の2~4階にあり、1階はデイサービス、5階からは有料老人ホームが併設されている。近くには自然豊かな公園があり、何名かの利用者が、毎日のように散歩に出かけている。利用者の平均年齢は90歳を越えたが、陽を浴びた2階のテラスで野菜作りをしたり、日向ぼっこをしたり、活き活きと働く職員に見守られて、安心・安全にその人らしい毎日を過ごしている。誕生会での出前寿司は利用者の楽しみである。個人情報・感染症・身体拘束防止など各種マニュアルを作成している。定期的に家族会を開き、遠方の家族には「キャスル通信」を利用して情報提供している。運営推進会議では活発な意見交換があり、提言が実現に至った例も多い。職員はセンサーや定期的な見守りなどにより利用者の安全に留意して支援し、毎月、内部学習会を開き、自己研鑽を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で、会議を通じ意見を出し合って理念をつくり、年間の目標を設定、実践している。	職員は「慣れ親しんだ生活態様を守り」「補い、力を発揮する」「個人として理解され」「自信と感情が生まれ」「豊かな人間関係を保ち支える」ケアを提供することを共有し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に町内の方を招待したり、避難訓練時には、地域の消防団や町内の方々に参加して頂いた。	訪問を受ける場合には利用者の感情や安心を第一に考え、慎重に対処し、ホームの行事には可能な限り住民を招待する。グループホーム交流会など外部の行事には積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の生徒さんや地域の民生委員数名の見学を受け入れ、入居者様とお茶会を通し、入居者様と交流をして頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2ヶ月毎に定期開催し、防火対策について等をテーマに、ホームとしての具体的な取り組みを報告しながら意見交換している。	2ヶ月に1回開催し、包括支援センター、民生委員や家族等が出席し、活発な議論が行われている。非常ドアを開けっ放しにするための「ステップ設置」など改善に至った例も多い。議事録には参加者の発言を具体的に記録している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新の際は区に出向いたり、運営上の疑問点については、市の担当者に相談、助言を仰いでいる。	待機者・空き部屋情報を1カ月に1度、市担当課に報告し、不明の点があれば市の担当者に気軽に尋ね、相談・連絡など連携できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の学習会を実施している。玄関にドアチャイムを付け、入居者様の安全に配慮している。	利用者が抑圧されないことの意味を十分に理解の上、身体拘束防止マニュアルを作成し学習会を実施、身体拘束のないケアの実施に努めている。昼間、玄関は施錠せずチャイムにて人の出入りに注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の学習会を実施している。不適切な言葉や対応があった場合、再確認の話し合いを行い、職員同士注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の尊厳や権利、成年後見制度について学習会を行い、全職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレット・重要事項説明書を元に施設の説明を行っている。施設見学、電話の問い合わせにも詳しい説明を行い、不安、疑問の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に数回、家族会を開催したり、意見箱を設置している。面会時やケアプラン説明時にご家族より意見、要望を聞いている。遠方のご家族には、電話連絡し意向を聞いている。	家族会で意見を求めている。来訪する家族は多く、その際は会話の中から、来訪できない場合は通信や電話を利用して、意見・要望を聴いている。意見箱の利用はあまりない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議等で、意見交換を行い、手すり設置等の改善につながっている。職員との個別面談を行い、意見を細やかに汲み取るように努めている。	スタッフ会議・全体会議、個人面談の際はもとより、日常的なコミュニケーションから意見・提案がなされている。その結果、採用され改善された例も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行っている。各自目標を立て、達成できるように業務にあたっており、年齢に関係なく知識や技術、やる気が昇給につながる仕組みになっている。また、各職員の希望に添えるようにシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普通救命講習などの外部研修に参加する際は、研修費の援助を行っている。「認知症のケア」「プライバシーの保護の取り組みについて」など、毎月テーマを決め内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区内の他事業所との連携を図り、定期的な学習会、情報交換、施設見学を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活環境に早く慣れることが出来るようになるべく慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、思い出を語り合ったり、お互いを知り合うことが出来るような対話の場を設けて信頼関係を作り、希望などを引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後には、ご家族と話をする時間を充分にとり、疑問、不安を聞き、関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた際、現状と今後の希望を伺い、微力ながら福祉に携わるものとしてアドバイスをさせて頂いている。また、許可を頂ければ、担当のケアマネや主治医とも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、できないことを支援しているに過ぎないという謙虚な気持ちで日々、業務に当たっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に取り、ご家族の不安、辛さをできる限り理解し、その上で、共に支援する努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を頂きながら、月に1度教会の日曜礼拝に出かける利用者がおられる。また、行きつけの美容室を引き続き利用する等、これまでの関係が途切れないように配慮・支援している。	利用者が地域と接点を持ち続けることの重要性を理解して、日曜礼拝、行きつけの美容室など馴染みの人や場所との関係持続のために支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、食事席の変更や趣味活動、体操等を通し、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の様子を見に行ったり、ご家族に状況確認する等関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦やアセスメントシート等の情報を入居者台帳に集め活用している。会話や行動、表情から思いや希望を汲み取り、状況観察を重ね、職員間で模索しながら、支援計画を作成している。	生活暦や好き嫌い等を入居者台帳に集約し共有して、希望や思いを汲み取っている。また、さりげない会話や表情から推察し、後でフィードバックしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族、ご本人より詳しく聞き取りしたり、他事業所より情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録物を詳しく記載するようにし、申し送りや職員会議を通じ、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、定期的開催される職員会議、ご家族からの意見を反映し、ケアプランを作成している。	利用者の「ケアの充実」の観点から、サービス担当者の意見を基に会議で意見交換をしながら、家族の意向、医師の指示などを加味して、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアプランの評価を毎日記録している。それらの情報をまとめて実践やケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理・美容室の送迎、買い物、病院受診の同行をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区民祭りに参加したり、外食、買い物に出かけたり、季節の草花を見に行く機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を活用している。主治医とは、24時間連絡が取れるようになっている。また、入居前の主治医や歯科往診など個別状況に応じ、支援している。	家族の同意を得て、提携医が2週間に1度訪問診療をしている。従来からのかかりつけ医(家族)に受診している利用者が1名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがあれば看護師に相談し、往診以外にも主治医にその都度連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入居中の様子を口頭やアセスメントシートで報告している。入院中、管理者がお見舞いに行き、ご本人が安心できるようにしている。入院中の情報収集をこまめに行い、受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が望む、医療連携体制の構築のため、年一度の家族会の研修会で、在宅診療の説明を医療機関より行って頂き、意見交換を行った。	事業所の出来ることを契約時に十分に説明している。重度化の際には早い段階で家族と話し合いを重ねて、要望に応じて適切な病院などの情報提供を行う体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員が見やすいところに保管。1年に1度、内容の精査、更新を行っている。また、学習会でシュミレーションをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間を想定しての火災避難訓練を年2回以上実施する。その後、運営推進会議のテーマとして、清田消防署員や消防団の方にアドバイスを頂いている。	夜間想定避難訓練は消防署立会いのもと、5月と9月に、日中想定も10月に行った。利用者も数名、可能な限り参加した。今後も様々な場面を想定して実施する予定である。	地震等災害発生に備え、様々な状況(強度・時期・時間帯など)を想定して、行動計画を具体的に策定し、利用者・職員が実行できる体制を構築されることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての学習会から学びを得て、日々の実践につなげている。	利用者の誇りを保つことの重要性を十分に理解し、学習会を実施し、マニュアルを実践に生かすべく、職員は日々互いに努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の表情、行動より言い表せない思いを汲み取る様にしている。職員の押し付けにならない様、言葉かけは、指示的にならない様配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、入居者様の気持ちに寄り沿った支援が出来るよう、入居者様の対応を最優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリーを付けたいなどの希望があれば、都度対応している。		

グループホームキャスル清田(さくら)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養アセスメントをとり、好みに沿った献立を心がけている。入居者様と共に盛り付けや茶碗拭き等を行い、楽しい雰囲気作りをしている。	「刻み食」の利用者には、食材を目の前で調理している。誕生会の出前寿司を話題にして、利用者の期待・楽しみを引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の食事・水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけが必要な方のみ促し、その様子を職員が見守っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔やサインを把握し、トイレでの排泄を促している。	排泄の失敗が利用者の誇りを傷つけることを理解して、失敗をなくす為に排泄間隔を工夫し、排泄の自立能力の保持のため個々の利用者に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や毎朝の牛乳、食物繊維を含んだものを提供している。また、体操、散歩等の軽い運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、希望時には、いつでも、シャワー浴や入浴できるようにしている(日勤帯のみ)。	週3回の入浴を基本とし、希望に沿って対応している。同性介助を原則としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的なスケジュールは決めているが、大体自由に過ごしている。疲労感がある時は、休息をとるよう促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の服薬状況を綴ったファイルを作成し、薬についての理解を深めている。服薬時は、複数の職員で確認し誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の趣味や庭仕事、レクリエーションを行っている。天気の良い日は散歩に出かけたり、外食の機会を設けている。		

グループホームキャスル清田(さくら)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や公園散策等、出来るだけその日のうちに希望に添える様に配慮している。又、日常会話から行きたい場所を伺い、可能な限り、計画を立て実施している。	近くに清田中央公園などがあり、職員と一緒に毎日のように散歩に出かける利用者もいる。また、ショッピングセンターに買い物に出かけたりしている。2階のテラスは利用者が外気に触れる心地よい空間になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的買い物外出や外食ツアーを予定し、スーパーや衣料品店、飲食店等で、自分で買い物や外食をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは、制限せずに支援をしている。近くの郵便局へ手紙を出す為に出かける等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインド・カーテンの開閉、季節の花を飾る等の季節感を取り入れた工夫をしている。また、テーブルを囲み、入居者様同士話がしやすくなるよう、職員が間に入っている。又汚染した場合は、すぐに清掃するようにしている。	談話室は少し狭いが、利用者は各自好きなことをして過ごし、その分親密な空間になっている。窓からは遠く山なみを見渡せ、クリスマスなど催事のデコレーションが季節感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、好きなときにくつろぐことが出来る環境を提供している。職員の関わり方を工夫し、入居者様が思い思いに過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた環境と近くなる様、馴染みの家具、日用品等を持ち込んでいる。室温管理は、職員が、巡回時都度行い、快適に過ごせるよう配慮している。	居室は、仏壇や神父様の写真を具え、マスク人形で部屋中を飾るなど、馴染みの物を置き、それぞれの個性や好みに応じた居心地良いものになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・脱衣所・浴室には手すりを設置し、自力で移動出来る様にしている。また、必要に応じ、居室やトイレ等に手すりを設置している。		